

2017 年度事業計画書(案) 及び予算書(案)



2017 年 4 月

(特活) イカオ・アコ

IKAW-AKO

Japan-Philippines Partnership for Environmental Protection

2017 年度の活動計画(案)

1 スタディツアー事業

2011 年度から始まった、地球の歩き方国際ボランティアツアー（数回）の受け入れは引き続き行う。スタディツアーもしくは短期ボランティアの受け入れを積極的に行う。問い合わせのある日本の高校 2 校（桜丘高校、日本福祉大学付属高校）、大学 2 校（日本大学、中京大学）など教育機関などと連携して、マングローブスタディツアーの受け入れを行う。あるいは行うために準備作業を行う。このように、他団体とも積極的に交流連携を行い、イカオ・アコの活動への賛同者を増やしたい。

長期間にわたり行っているスタディツアーの調査研究として、日本教育公務員弘済会の助成を受け、「高校による途上国へのスタディツアーの意義と効果」を実施する。

2 フェアトレード事業

今年度も、ジュースパックのリサイクル商品（ナミナミプロダクツ）の仕入・販売を行う。売り上げを伸ばすために、イベント等での販売に力を入れる。上記の教育機関との連携を行う。

3 JICA 草の根技術協力事業

2015 年度から始まった JICA 草の根協力事業（パートナー型）では、本邦研修が始まる。9 名の受け入れに万全を尽くす。ウバイの対象地域では環境教育の実施、コンポストの作成、配布が今年度の大きな目標である。YOKOHAMA まごころ基金からの寄付金により購入する、廃棄物収集用のサイドカー付きバイクを本事業と連動させて、カタルンガン村で本格的運用を開始する。

4 地球環境基金・イオン環境財団・緑の募金ほか

地球環境基金による事業で、「フィリピンの水源地域におけるサトウキビ畑の有機農業への転換」（第 1 年次）を実施する。

イオン環境財団の助成事業で、「先住民族の命の森復活プロジェクト」（第 1 年次）を実施する。

緑の募金公募事業で、「上・下流部住民の交流による流域の森林再生」（第 1 年次）の事業を行う。

TOTO 水環境基金の助成事業で、「水源の森を守り、学校・地域に水を届けよう」（第 1 年

次)の事業を行う。

日本国際協力財団の助成事業で、「フィリピン貧困農山村における環境調和型観光農業の育成事業」(第1年次)を実施する。

5 企業連携

5.1 ニチバン株式会社

ニチバン株式会社と共同で行っている「ニチバン巻心エコキャンペーン」を本年度も継続して行う。前年度(第7回)の巻心Ecoキャンペーンで頂いた寄付金により、27,328本のマングローブをネグロス島に植樹する予定である。また、巻心の回収のよびかけや広報に積極的に協力する。

5.2 アストモスガス株式会社

アストモスガス株式会社と共同で行っている「あすをともし森づくり」をボホールにて継続して行う。今年度は11,000本の植林を行う予定である。また、アストモスガスの植樹ツアーも受け入れる。

6 インターン・ボランティア受け入れ

今年度も、国内・現地共、インターンとボランティアを積極的に受け入れる。インターン・ボランティアの受け入れに関しては、JICAや日本の教育機関との連携も検討し、効率よく人材を見つけられるようにしたい。

7 植林計画

当会では、2015年までに100万本の植樹を行うことを一つの目標としていたが、2013年度中に達成した。今後は、2020年に150万本を達成する目標とする。今年度は、6万本の植林を行う計画である。

8 国内活動

- 引き続き、教育機関での環境教育、フェアトレード商品の販売、植樹ツアーの広報活動、企業や他団体との連携促進、提案書の作成を行い、現地の活動をサポートする。
- 名古屋市市内借りた事務所の有効利用を探る。また、専従の事務職1名を雇い、事務局体制を充実させる。
- 引き続き、役員体制を検討し、国内体制の強化、ファンドレイジングの拡充など、解決できなかった課題に挑戦できる環境と文化を構築する(創業者の経営から集団によるマ

ネジメントへ)。

■年賀寄附金により、「日比の若年層を対象とした環境配慮型グローバル人材の育成のためのESD事業」を実施する。

9 2017年度収支予算(案)

科目	予算額	備考
(資金収支の部)		
I 経常収入の部		
1会費・入会金収入	200,000	
1) 入会金収入	0	
2) 正会員会費収入	200,000	
3) 賛助会員会費収入	0	
2事業収入	2,800,000	
1) フェアトレード事業	300,000	
2) ロゴグッズ販売事業	0	
3) その他	2,500,000	
	0	
3補助金等収入	16,000,000	
1) 民間補助金収入	6,000,000	緑の地球防衛基金、イオンなど
2) 受託収入	10,000,000	JICA など
4寄付金収入	4,000,000	
1) 寄付金収入	4,000,000	アストモス、ニチバン、個人など
2) 募金収入	0	
5雑収入	0	
1) 受取利息	0	
2) 雑収入	0	
経常収入合計	23,000,000	
II 経常支出の部		
1事業費	9,800,000	
1) フェアトレード事業	300,000	
2) ロゴグッズ販売事業	0	
3) その他	9,500,000	
	0	
2管理費	10,720,000	
1) 役員報酬	0	
2) 給料手当	4,000,000	
3) 臨時雇賃金	1,000,000	現地労働者の雇用
4) 福利厚生費	500,000	
5) 会議費	200,000	現地での講習会開催など
6) 旅費交通費	2,000,000	国内出張費、海外渡航費
7) 通信運搬費	100,000	海外宅配便、国内送付料
8) 消耗什器備品費	1,000,000	
9) 消耗品費	500,000	
10) 印刷製本費	100,000	バナーなど印刷

11) 光熱水料	100,000	現地の事務所
12) 賃借料	500,000	車やボートのレンタル
13) 車両関係費	200,000	現地用車両
14) 諸謝金	0	
15) 租税公課	20,000	
16) 雑費	500,000	
3予備費	0	
1) 予備費	0	
経常支出合計	20,520,000	
経常収支差額	2,480,000	
Ⅲその他資金収入の部		
1固定資産売却収入	0	
1) 什器備品売却収入	0	
2繰入金収入	0	
1) 繰入金収入	0	
3借入金収入	0	
1) 長期借入金収入	0	
その他資金収入合計	0	
Ⅳその他資金支出の部		
1固定資産取得支出	0	
1) 車両運搬具購入支出	0	
2) 電話加入権購入支出	0	
2借入金返済支出	0	
1) 長期借入金返済支出	0	
その他資金支出合計	0	
当期収支差額	2,480,000	
前期繰越収支差額	5,365,063	
次期繰越収支差額	7,845,063	
(正味財産増減の部)		
Ⅴ正味財産増加の部		
1資産増加額	2,483,000	
1) 当期収支差額	2,483,000	
2) 車両運搬具購入額		
3) 電話加入権購入額		
2負債減少額	0	
1) 長期借入金返済額		
Ⅵ正味財産減少の部		
1資産減少額	0	
1) 什器備品売却額		
2) 車両運搬具減価償却額		
3) 什器備品減価償却額		
2負債増加額	0	
1) 長期借入金増加額	0	
当期正味財産増加額	2,480,000	
前期繰越正味財産額	5,365,063	
当期正味財産合計	7,845,063	